



# 修猷館ラグビーOBクラブ

会報 全国選抜大会出場 記念号

(令和4年4月号)

早稲田実業との合同練習(3月24日)



## よくやった ありがとう

OBクラブ会長 武藤 英治 (S45年卒)

昨年の「初蹴会」で、「まずは筑紫高校を破れ。そこから開けてくる世界があり、東福岡を見据えるチームとなる」と現役諸君に激励の挨拶をした。その年の花園予選準決勝で見事に筑紫高校を撃破した。決勝の東福岡戦は主将や中心選手を欠く中で敗れたとは言え、修猷らしい闘いを示してくれた。

明けて本年、県新人大会で勝ち進み、決勝はコロナの影響で棄権したが、福岡県第2代表として九州大会に駒を進め、鹿児島県第1位の鹿児島工業、花園常連の宮崎・高鍋高校を連破し、全国大会への道を開いた。

心から現役諸君に祝意と謝意を贈りたい。「おめでとう」「ありがとう」と。この日をOB皆、心待ちにしていた。自力で全国大会に勝ち進んだのは四十四年ぶり。選抜大会はチャレンジ枠での出場以来十四年ぶりの快挙である。しかも組み合わせが発表され、更に驚きと喜びに浸った。初戦は先輩方が何度も涙をのんだ花園六十九回出場古豪秋田工業。六度の対戦で一勝五敗。その一度の勝利が昭和二十四年第四回東京国体の準決勝で修猷館唯一の全国制覇を成し遂げた時である。秋田工業を破れば、西の東福岡・東の桐蔭と称される強豪桐蔭学園。願ってもない組み合わせだ。

ゲーム内容は森田博志君(S五十八年卒)の「観戦記」に委ねるとして、FWの平均体重が両校とも我が修猷館より15kgほど重く、体格差は如何ともしがたいが、全員が執念のタックルを続け、秋田工業には快勝し、先輩方の雪辱を晴らした。続く桐蔭戦は前半20分まで共に無得点と善戦をした。ここに修猷ありと胸を張れる戦いぶりであった。

試合後、涙にむせぶ現役の前に立つと、私も涙ぐんだそれは、感謝の涙であった。「よくやった。ありがとう」しか言葉はでなかった。

すぐに春の大会が始まる。筑紫そして永遠のライバル福高も牙をむいてくるだろう。東福岡の壁はとてつもなく大きく厚い。まだ大きな伸びしろのあるチームであり更なる高みを目指し、おごることなく精進して頂きたい。



# 観戦記

森田 博志 (S58年卒)

コロナ禍、第23回全国高校選抜ラグビー大会は2回戦まで無観客開催だった。特別に観戦した安部直幸 (S41年卒) OBクラブ前会長が初戦の秋田工との試合前、ぽつりと言った。「こっちの肩から守田 (基定=S14年卒) 先生、こっちはは淵本 (武陽=S25年卒) 先生が見守られている」。ともに、100年に迫る修猷館のラグビー史で欠かせない恩師だ。特に淵本先生はS24年に秋田工を破って「全国制覇」したメンバーでもある。枯れ芝の熊谷ラグビー場Bグラウンドで躍動した現役たちを目の当たりにしたら何と言っただろう・・・ (守田先生は「バン・ザ〜イ」と叫んだか)

31-10。完勝だった。FW8人の平均体重は修猷の79kgに対して秋田工は89kg。特に秋田工のフロントローは103、103、110kgと修猷にはいない100kg台の3人だった。逆に修猷には秋田工にはいない60kg台のロックとフランカーがいた。ラグビーはしかし、数字のスポーツではない。眞鍋健治監督 (H8年卒) は「セットプレーが弱かろうと、体が小さかろうとチームのディフェンスをきちんとやれば止まる。この子たちはそれを理解している。今日の朝の散歩の時にもその確認をして、塊で止めるということを意識した」と胸を張った。

前半13分にSO島田隼成主将の左中間22mPGで先制すると、6分後には流れるような攻撃から島田が左中間に初トライ。島田は「味方が完全に崩してくれてのトライだった。自分の力とかではなく、チームで取ったトライ。(PGの)3点とあのトライで流れを持ってこられたかな」と振り返った。



▲秋田工戦で先制トライを挙げる島田主将

全く危なげない試合運びは、島田のエリアマネジメントが冴(さ)えたから。できるだけ相手陣で戦い、攻める時は大胆に。「今年のチームの強みは明るくラグビーをするところ。この舞台、勝ち負けよりも楽しくラグビーをする、自分たちのラグビーをする。そういった意味では緊張感がいい力に変わった」と眞鍋監督。硬さがとれた後半はさらに動きがよくなった。5分に本来のポジションではないSH塚本航が好判断から突破してトライ(ゴール)を奪い、14点差にリードを広げた。勝負を決めたのは、中学まで野球少年、「THE修猷館」のような名前を持つWTB嶋田竹虎だった。1トライを返された後の25分に連続攻撃からポスト真下に抑えてトライ(ゴール)、再び14点差に。終了間際には諦めずにボールを追った島田がこの日2つ目のトライを挙げダメを押した。

笑顔の島田主将が振り返った。「試合前に相手(秋田工)との歴史を聞き、『伝統の一戦』と言われる試合だったので、勝てたことが素直にうれしい。祖父がOBなので、恩返しではないですが、(勝利を)見せることができたのはちょっとうれしかった。秋にヒガシ(ヒガシ福岡)を倒したいというがあるので、そこに向けての大きな一歩になる」



▲秋田工戦、トライするSH塚本を全員で好フォロー

眞鍋監督は「秋田工には国体で唯一、勝っていて、それ以外は全部負けている、とOBから言われていた。先輩方からは応援だけでなく、かなり支援も頂いており、ありがたい。いいスコアで勝てたことは、いいプレゼントになりました」と感謝を忘れなかった。OBも負けてない。記念すべき一戦のマッチドクターは服部惣一さん(H4年卒)だった。試合後、負傷した島田主将の治療までし、宿舎まで送る献身ぶりだった。

#### 【秋田工との対戦】

- 0-35 1948(S23)年  
福岡国体決勝  
(秋田工国体制覇)
- 3-15 1949(S24)年  
第28回全国高校大会1回戦@東京  
(秋田工全国制覇)
- 25-6 1949(S24)年  
東京国体準決勝  
(修猷館国体制覇)
- 0-3 1951(S26)年  
広島国体決勝  
(秋田工国体制覇)
- 0-12 1952(S27)年  
第31回全国高校大会準決勝@西宮  
(秋田工全国制覇)



▲秋田工戦、勝利を引き寄せるトライに表情も緩む

●6-8 1955(S30)年

第34回全国高校大会1回戦

@西宮(秋田工準優勝)

○31-0 2022(R4)年

第23回全国高校選抜大会1回戦

@熊谷(修猷館ベスト16)

伝統校に快勝したことで、2回戦では東の横綱の桐蔭学園との対戦が実現した。当然、秋田工よりさらに大きく力強い相手だった。立ち上がり、桐蔭から全国の頂点へ立つ原動力となったカウンターラックの洗礼を受けた。あっという間にボールを奪い返されたが、慌てることはなかった。1人で倒せないなら2人で。

倒れてはすぐ起き上がり、次の接点に向かった。0-0の均衡が続いた21分間は全くの互角、いやそれ以上の戦いだった。島田主将は「チームで前へ圧力をかけるといのは、ずっと言っていて、それと、内からしっかりカバーする。前半20分はよくできていた」。組織的なディフェンスは元々、眞鍋監督が最もこだわってきたところだ。そこへ同期の川寄拓生コーチ(H8年卒)が加わり、お互いがカバーし合って幅広く網の目のように守れるようになってきた。

0-31。結局、前半に2トライ、後半に3トライを奪われ、「体力の問題なのか、きつくなってくるとどうしてもそこが動けない。もっとこれから体を上げていく」と島田主将。川寄コーチは「自分たちが目指すところがヒガシなら、そこ(フィジカル)をやらないと話にならない。決まった回数は確実にやる、週4回。もっともっと体を大きくして自信をつけてくれたらいい。フィジカルで負けていると、精神的にプレッシャーを受けたまま試合をしてしまう」と課題に挙げた。

とはいえ、全国トップレベルの力を肌で感じられたことは大きかった。島田主将は「チームが始まった時に東福岡を倒すということを目標に掲げた。それがだんだんと実現できる道がみえてきたと僕自身もチームメートも思っている。ここで満足するのではなく、次、何ができるのかももっと考えて成長していけたらいい」ときっぱりと

言った。完敗に涙ぐむ選手もいたが、高みを知れば知るほど、悔しさ大きくなる。島田主将は「これで終わりじゃない。これがスタートや。だけん泣くな! 胸張って帰ろうぜ、福岡へ。顔上げて帰ろう」と声をかけた。

試合後、福岡からかけつけた岡本圭吾館長(S56年卒)が激励した。「強くなってきたね。少しずつ本物になりよう。練習しようや、もっと。桐蔭とあれだけ試合ができたということは、お前たちの『秋』と言う、島田が言いよう言葉を、言葉じゃなくて本気にやろうや。ずっと思うのは、ディフェンスは勇気が出るんよ。攻撃でもうちょっと勇気出そうや。ボール持ったらビ



▲大きな相手に1人でダメなら2人で、関係者から絶賛されたしつこい防御



▲無得点に終わったが最後まであきらめなかった

ビッてしまいうっちゃん、まだ、強くなろう。でも、本当にうれしいよ。誇りに思います。おまえたちのことを。頑張ろうな」

その後、選抜大会では桐蔭学園が準決勝で報徳学園に21-36で敗れ、東福岡との決勝戦となったが、その決勝はコロナの影響で中止になった。両校選手の健康が確認され、急遽行われた「幻の決勝戦」では東福岡が37-10で報徳学園に快勝している。島田主将以下少数精鋭の部員が秋に倒さなければならぬヒガンとはそれほど高い山でもある。

大会前日には、修猷が初めて全国大会に出場した時(S4年)の対戦相手でもある早稲田実のご厚意で、早稲田大学ラグビー部のグラウンドで合同練習が実現した。今春、修猷から入部したフランカー谷口宗太郎、SH糸瀬真周、FB福島秀法が見守る中、2時間ほど汗を流した。今春の卒業生は現役で大学へ進学した部員が多かった。これも立派。リーグワンの東京サントリーサンゴリアスで活躍するフランカー下川甲嗣(H29年卒)も姿をみせ、「選抜大会の出場権を自力でつかんだことを自信に持って戦ってください。緊張で絶対ミスはあると思うが、そこをどうカバーするか。全力で全員でカバーして、あきらめずに戦ったら結果はついてくる。ミスしてもどんなプレーしてもOBは期待はしているけど、何とも思わない。自分たちがやってきたことを信じてそれを最後まで頑張ってください」と激励した。

現地での応援がかなわなかった関東のOBからは特製Tシャツの差し入れなどを行った。渡邊康宏部長(S57年卒)は「秋田工業との試合の後、宿舎(深谷)に戻ってしばらくすると、酔っぱらい達が来てからくさ」と冗談交じりに話していたが、OBの心遣いに感謝していた。

今の現役はコロナ禍で入学以来、満足な学生生活を送っていない。帰路の途中、東京で自由時間を過ごした選手やマネジャーは気持ちも新たに新学期を迎えた。



▲早大グラウンドで下川さん激励



▲桐蔭学園戦後、激励する岡本館長

# 更なる高みへ

主将 島田 隼成 (SO)

埼玉県熊谷で、第23回全国選抜高校ラグビー大会が行われた。入学以来苦しめられ続けている新型コロナの影響により無観客となったものの、何とか大会は開催された。

福岡県新人大会を勝ち上がり、九州新人大会においてもベスト4入りして、全国への切符を手にすることができた。

出場に際しては、先生方のご指導、また多くの先輩方から多大なるご支援をいただき、万全の体制で、ラグビーの聖地熊谷へと向かった。

初戦の相手は秋田工業高校。共に部の創立が1925年という伝統校同士であり、部史によると過去全国大会では6度対戦して1勝5敗の成績である。先輩方の想いも胸に、絶対に負けられないという気持ちで試合に臨んだ。

結果は31-10。

大型の選手を揃える秋工に対し、鍛えたディフェンスで刺さり続け、大きな一勝を手にすることができた。

全国ベスト16入りした僕達の次の相手は、東の横綱、桐蔭学園。

前半20分まで0対0。残り10分で2トライを奪われ0-10で前半を終えた。後半開始早々にトライを奪われて差を広げられる。その後何とか一本トライを取り返すべく立ち向かったが、紺色のジャージの壁は厚く、0-31でノーサイドとなった。

全国の強豪に敗れて涙を流す僕達に館長より「よくやった」とお言葉をいただき、冬の花園での雪辱を誓った。

今回の全国大会は僕達の代だけで成し得た快挙でなく、これまでの諸先輩方から学んだもの、また修猷生の皆さんの応援の上に成り立つものである。今後も修猷生としてのプライドを忘れず、打倒東に向けて闘い続けたいと思う。



## OBクラブ総会・福高定期戦のご案内

☆4月29日(金・祝)

@修猷館高校会議室

13:30 OBクラブ総会(定期戦観戦の前に、是非ご出席をお願いします)

@修猷館高校グラウンド

15:00 定期戦開会式のあと現役戦キックオフ

Aチーム戦のあとBチーム戦

17:00 閉会式のあとアフターマッチファンクション(高校生のみ@中庭)

●OB・OGは観戦、開会式、閉会式のみ参加

●感染症予防対策徹底へのご協力をお願いします



▲今年1月2日の初蹴会。コロナ感染の端境期でした

## TOPICS



▲卒業おめでとう。令和4年卒、16名の新OB・OGの皆さん(福島くん欠席)



▲館長就任お祝いの博多人形を前にして

『最狂』。県大会決勝で打倒東福岡に向けて彼らが掲げたテーマである。「最強」ではなく「最狂」で闘って相手に挑み・倒す。この修猷らしい思いは、チームを奮い立たせ闘う軍団へと変えた。私も燃えた。しかし、この最狂は最強とともに、成し遂げるのはめちゃくちゃ難しい。

私が考える最狂の証は「チームとして個人として狂うことで相手を惑わせ、相手の能力を十分に発揮させないこと。自分たちより能力が高いチームに本番で勝つこと」。狂:【激しく燃えあがる、異常に集中してみさかいがつかない、相手に恐怖を感じさせる、神がかり、しかも冷静(反則をしない)……】

修猷ラグビー部は、「何かが違う」、「何かがある」、「変」、「あいつらおかしい(なんとも言えない恐怖)」と試合前から有利になる伝統力、試合中の全てが攻め(アタック、ア・タックル)、プライド・こだわり(一歩前へ)…。修猷の場で学ぶ者だからこそ獲得する力である。

近年の修猷ラグビーは、チームとして「至強(この上なく強いさま)」に近づき、併せて「最狂」にも変わりつつある。期待感いっぱいワクワクする。3月の全国選抜大会出場、最高！次はどうかして花園へ。この様に感じ願う私は、現館長(何で?)元ラグビー部顧問(21年)元ラグビー部員(56卒)の岡本です。高校生の時も顧問としてもラグビー部に貢献というより、多くの被害者の方を生み申し訳ない思いでいっぱいです。館長として貢献ができるよう、良(よ)い加減で頑張りますのでよろしくお願いします(迷惑なので人工芝のグラウンドには行きません)。

私は、OB会のすべての修猷ラグーマンは、修猷館ラグビー部として誇れる人材であると思っています。その年々の結果やプレーのどうのこうのでなく、あのグラウンドで、仲間とどう頑張ったか、どう「カッコよかった」かが誇りにつながるからです。苦しいチームだからこそ最狂が多かった気もします。そんな私たちOB・OGは、現役の活躍によって元気や夢をもらっています。ついては、現役に対しいろいろな側面でご支援をお願いいたします。(OB会費もよろしく)

最後に『闘魂』、あくまでたたかおうとする意気込み、闘争精神、不屈の闘魂。修猷にしかできない日本一の「練習」・「知」に挑み、最高の自信『至強と最狂(分析を含む)』を掴み取って、勝利へ！

## 現役強化のため、会費納付にご協力ください！

昨年度末は、沢山のOB・OGの皆様年全国選抜大会出場支援金を賜りありがとうございました。新年度を迎え、更なる高みを目指している現役諸君のバックアップをお願いします。

### ●年会費 7,000円

(70歳以上 5,000円、学生・賛助会員様 3,000円)

◎西日本シティ銀行 西新町支店 普通:1336258

修猷館ラグビーOBクラブ(同封の振込依頼書をご利用ください)

◎ゆうちょ銀行 口座から>【記号】17490【番号】87547981

(名義:修猷館ラグビーOBクラブ)

他行からの振込>七四八店 普通:8754798 修猷館ラグビーOBクラブ

### ●発行/修猷館ラグビーOBクラブ事務局

事務局長/田中喜久(S46年卒)

〒814-0015 福岡市早良区室見3-9-24-101

mobile 090-9576-9964

E-mail mic-t28@kra.biglobe.ne.jp